

原発「フィンランドの陣」

東京電力福島第1原発事故後、国内で原発新増設が見込めないなか、海外案件に活路を求める日本の原発メーカー3社が、人口約540万人の北欧フィンランドに注目している。東芝、日立製作所、三菱重工の3社は、計画中の二つの大型案件を巡って、「フィンランドの陣」と呼ばれる受注競争を繰り広げており、その結果は今後の日本勢の原発事業の行方を占うものとも言える。

【大久保陽一】

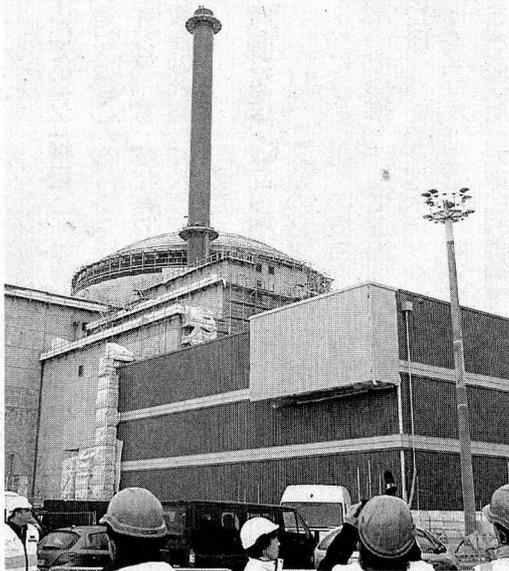
日本勢3社が受注競争

「今年中にはいけそうだ」(東芝首脳)。フィンランド中部、バルト海に面したハンヒキヒでの原発建設で、仏アレバと受注を競っていた東芝は2月末、同国の原発事業者「フェンノボイマ」から優先交渉権を得たと発表した。フェンノボイマが20年ごろの稼働を計画するのは、出力160万キロワットの大型炉1基で、事業総額は数千億円規模とみられる。東芝は福島で事故が起きたBWR(沸騰水型軽水炉)を改良し耐震性も高めたABWR(改良型沸騰水型軽水炉)を提案。海外初となる東芝製プラントの建設に向け、年内の契約に自信を見せる。

ただ、フェンノボイマは、中型炉(出力100万〜1

輸出戦略 成否占う

30万キロワット)への計画変更も検討している。東芝の得た優先交渉権は大型炉が対象のため、中型炉に変更された入札で、東芝、日立米ゼネラル・エレクトリック、GE連合、三菱重工、アレバがそろい踏みした。フィンランド産業電力(TVO)によると、今年1月に行われた入札で、東芝、日立米ゼネラル・エレクトリック、GE連合、三菱重工、アレバがそろい踏みした。フィンランド産業電力(TVO)によると、今年1月に行われた入札で、東芝、日立米ゼネラル・エレクトリック、GE連合、三菱重工、アレバがそろい踏みした。



建設中の原子力発電所「オルキルオト3号機」(青野由利撮影)

も競うことになりそう。東芝は「大型でも中型でも対応できる」としているが、予断を許さない状況だ。一方、フィンランド南部のオルキルオト原発で20年ごろの稼働を目指す4号機(出力145万〜175万キロワット)の建設計画には、国内3社を含む大型炉5陣営が争っている。批判的な政党が政権与党の一角を占めるなど脱原発的な動きも出てきた(電機メーカー関係者)といい、今後の見通しに不透明な要素も出始めている。

世界の原発の新設は経済成長に伴いエネルギー需要が高まる中国や東欧、ロシア、トルコなど新興国で加速する機運が高まっている。こうした中、BWRは福島原発と同型ということもあって原発の炉型はPWR(加圧水型軽水炉)が主流となりつつあり、東芝や日立のようなBWR陣営には生き残りをかけた競争にもなっている。

フィンランドにある2カ所の原発建設計画



原子力協定

原発を輸出入するには、核兵器への軍事転用や第三国への流出を防ぐため、国際的なルールに基づいて輸出入国が2国間で「原子力協定」を結ぶ必要がある。協定締結国はそれぞれ国内法を整備し、民間事業者に軍事転用や再輸出をしないことを保証させよう。国際原子力機関(IAEA)の査察受け入れを確約することなどが求められる。

外務省によると日本は現在、米国、英国、カナダ、豪州、フランス、中国、欧州原子力共同体(ユーラトム)、カザフスタン、韓国、ベトナム、ヨルダン、ロシアと協定を締結。フィンランドはユーラトムに加盟している。またトルコと締結で合意しインド、南アフリカ、ブラジル、アラブ首長国連邦と交渉中だ。

Key word